

NYマーケットレポート (2016年10月28日)

NY市場では、序盤に発表された第3四半期の米GDPが市場予想を上回る伸びとなったことを好感して、ドルは堅調な動きとなった。また、年内の米国の利上げ期待の高まりからドル買い・円売りとなり、クロス円も堅調な動きとなった。ただ、米個人消費が予想を下回る結果となったことや、その後に発表されたミシガン大学消費者信頼感指数が昨年9月以来1年1ヵ月ぶりの低水準となったことを受けて、反落する場面もあった。ただ、米国の利上げ観測は根強く、再び堅調な動きとなった。しかし、FBIが、大統領選の民主党候補ヒラリー・クリントン氏が国務長官時代に私的な電子メールを使っていた問題をめぐる調査を再開すると発表したことを受けて、株価やドルが大きく下落し、リスク回避の動きが優勢となり、クロス円も軟調な動きとなった。

2016年10月28日 (金)

TOKYO	終値	高値	安値
USD/JPY	105.27	105.44	105.08
EUR/JPY	114.90	115.04	114.59
GBP/JPY	128.25	128.30	127.96
AUD/JPY	79.75	80.01	79.64
EUR/USD	1.0917	1.0925	1.0893

LONDON	高値	安値
USD/JPY	105.39	105.18
EUR/JPY	115.09	114.70
GBP/JPY	128.25	127.61
AUD/JPY	79.89	79.68
EUR/USD	1.0923	1.0902

*東京クローズ～NYオープンまでの高安

NEW YORK	終値	高値	安値
USD/JPY	104.74	105.54	104.48
EUR/JPY	115.04	115.33	114.79
GBP/JPY	127.69	128.22	127.46
AUD/JPY	79.56	79.99	79.29
NZD/JPY	75.00	75.40	74.78
EUR/USD	1.0984	1.0992	1.0912
AUD/USD	0.7597	0.7604	0.7558

米主要株価	終値	前日比
米ダウ平均	18161.19	-8.49
S&P500	2126.41	-6.63
NASDAQ	5190.11	-25.87
日経225 (CME)	17405	-45
トロント総合	14785.29	-48.47
ボルサ指数	48007.20	-107.47
ボエスバ指数	64307.63	+58.13

10/31 経済指標スケジュール

08:50	【日本】9月百貨店・スーパー販売額
08:50	【日本】9月小売業販売額
08:50	【日本】9月鉱工業生産
09:00	【ニュージーランド】10月ANZ企業景況感
09:01	【英国】10月GfK消費者信頼感調査
09:30	【オーストラリア】9月民間部門信用
13:00	【日本】9月自動車生産
14:00	【日本】9月住宅着工戸数・9月建設工事受注
16:00	【ドイツ】9月小売売上高
17:00	【トルコ】9月貿易収支
18:30	【英国】9月住宅証券融資高
18:30	【英国】9月住宅ローン承認件数
18:30	【英国】9月マネーサプライM4
18:30	【英国】9月消費者信用残高
19:00	【欧州】3Q GDP
19:00	【欧州】10月消費者物価指数
21:00	【南アフリカ】9月貿易収支
21:30	【米国】9月個人所得・9月個人支出
21:30	【米国】9月PCEデフレーター
21:30	【カナダ】9月鉱工業製品価格
21:30	【カナダ】9月原料価格指数
22:00	【ポーランド】10月消費者物価指数
22:45	【米国】10月シカゴ購買部協会景気指数
23:00	【メキシコ】9月GDP
23:30	【米国】10月ダラス連銀製造業活動指数

コモディティ	終値	前日比
NY GOLD	1276.80	+7.30
NY 原油	48.70	-1.02
CME コーン	355.00	-2.50
CBOT 大豆	1012.00	-13.00

米国債利回り	本日	前日
2年債	0.853%	0.880%
3年債	1.005%	1.032%
5年債	1.325%	1.338%
7年債	1.632%	1.636%
10年債	1.845%	1.845%
30年債	2.615%	2.605%

ドイツ10年債	0.167%	0.170%
英国10年債	1.260%	1.253%

10/31 主要会議・講演・その他予定

・日銀金融政策決定会合 (～1日)

NY 市場レポート

《企業決算》

米エクソン

第3四半期の1株利益は0.63ドル（予想0.58ドル）

米マスターカード

第3四半期の1株利益は1.08ドル（予想0.98ドル）

21:00

《 経済指標の結果 》

10月ドイツ消費者物価指数（前月比） 0.2%（予想 0.2%・前回 0.1%）

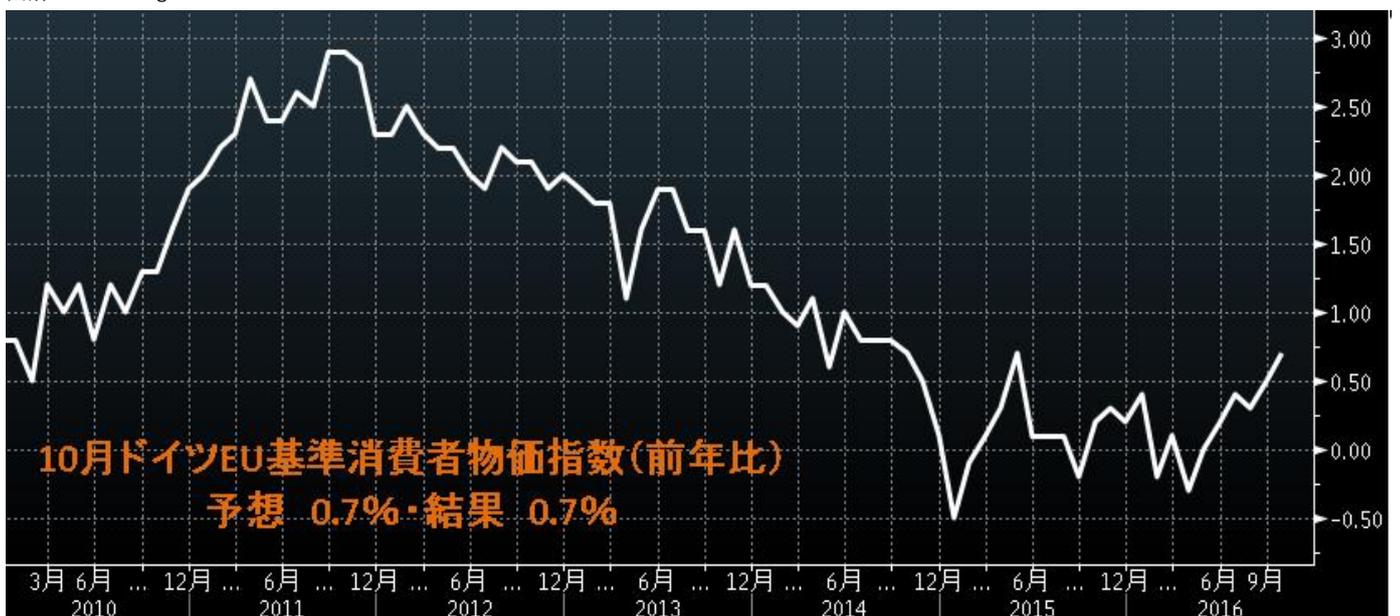
10月ドイツ消費者物価指数（前年比） 0.8%（予想 0.8%・前回 0.7%）

10月ドイツEU基準消費者物価指数（前月比） 0.2%（予想 0.1%・前回 0.0%）

10月ドイツEU基準消費者物価指数（前年比） 0.7%（予想 0.7%・前回 0.5%）



出所：Bloomberg



出所：Bloomberg

21 : 20

◀ 経済指標の結果 ▶

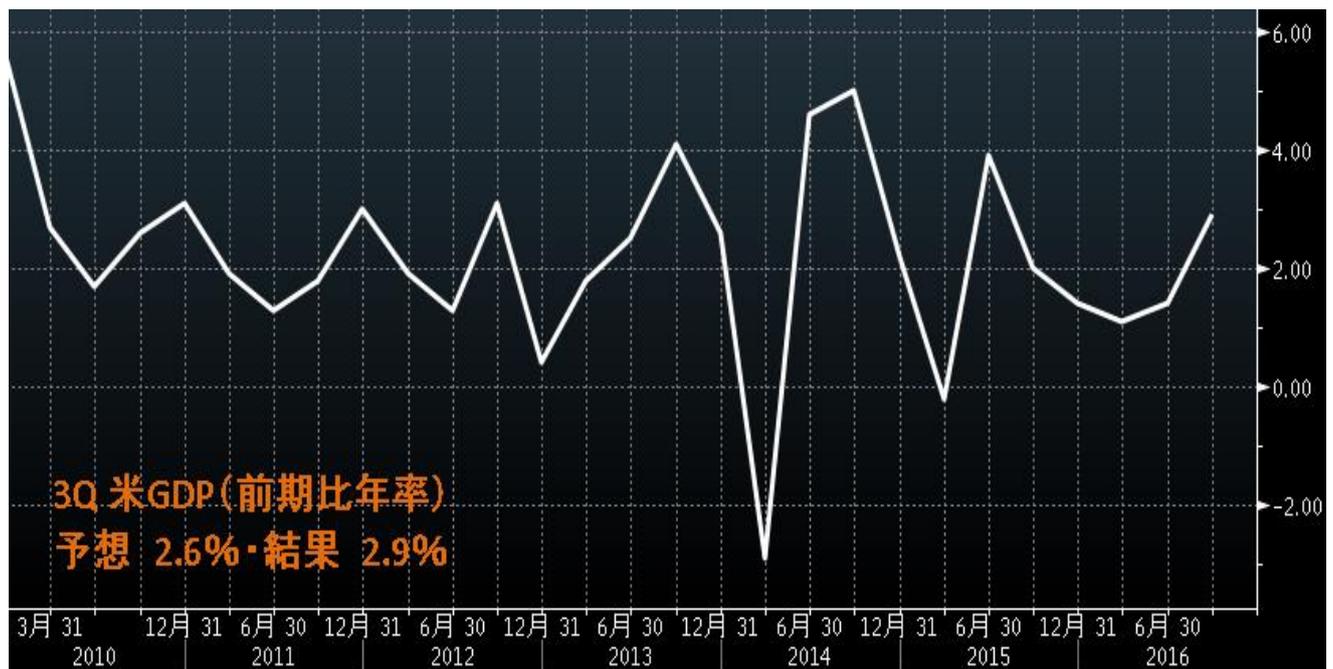
9 月南ア財政収支 -39.4 億 ZAR (前回 -166.8 億 ZAR)

21 : 30

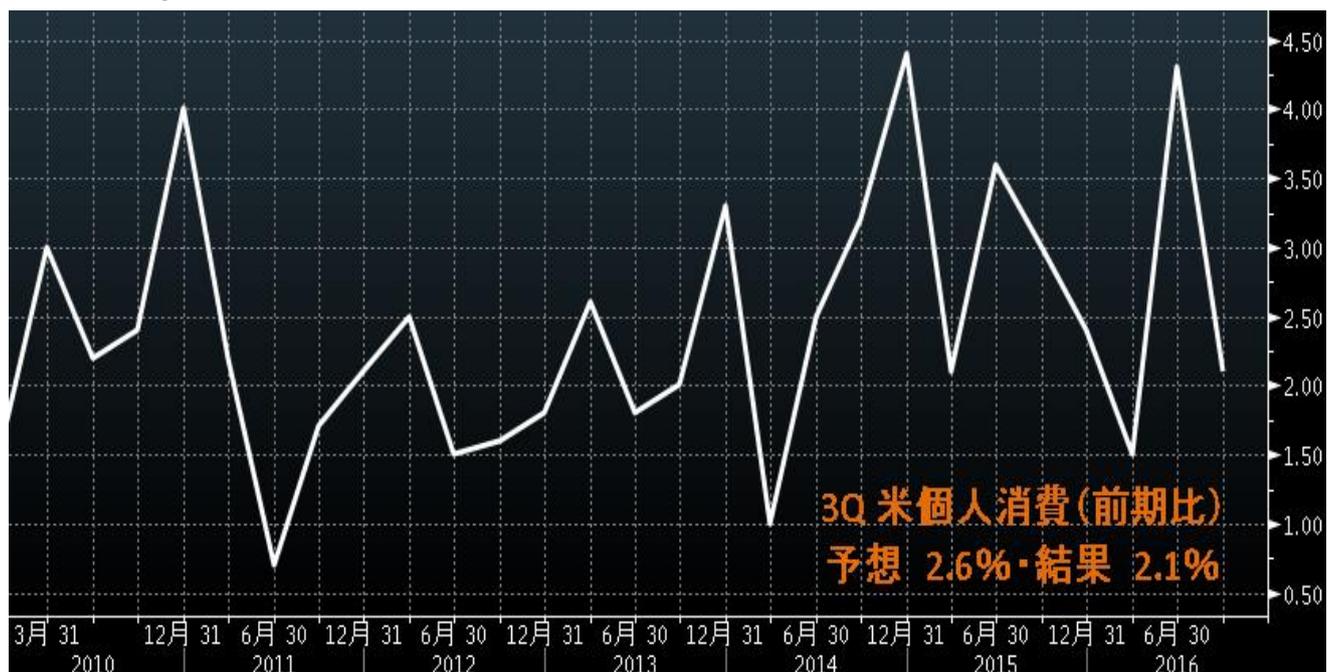
◀ 経済指標の結果 ▶

3Q 米 GDP (前期比年率) 2.9% (予想 2.6%・前回 1.4%)

3Q 米個人消費 (前期比) 2.1% (予想 2.6%・前回 4.3%)



出所 : Bloomberg



出所 : Bloomberg

＜米 GDP＞

	3Q 速報	2Q	1Q	4Q	3Q
GDP	2.9	1.4	0.8	0.9	2.0
個人消費	2.1	4.3	1.6	2.3	3.0
耐久消費財	9.5	9.8	-0.6	4.0	6.2
非耐久消費財	-1.4	5.7	2.1	1.2	3.2
サービス	2.1	3.0	1.9	2.3	2.0
住宅投資	-6.2	-7.7	7.8	10.1	8.2
輸出	10.0	1.8	-0.7	-2.7	-2.8
輸入	2.3	0.2	-0.6	0.7	1.1
政府支出	0.5	-1.7	1.6	1.0	1.9
最終需要	2.3	2.6	1.2	1.2	2.6
国内最終需要	1.4	2.4	1.2	1.7	3.0

7-9 月期の米 GDP 速報値は、市場予想の+2.6%を上回る+2.9%となり、前期から大幅な伸びとなった。堅調な個人消費に加え、輸出やインフラ投資の好調さが目立った。また、GDP の約 7 割を占める個人消費は+2.1%と、前期の+4.3%から減速したものの、引き続き 2%以上の伸びを維持した。

①耐久財は+9.5%と前期に続き 9%台の大きな伸びを維持したが、非耐久財は-1.4%と 2012 年 10-12 月期以来のマイナスとなった。サービスは+2.1%だった。

②企業の設備投資は+1.2%となり、特にインフラ投資は+5.4%の 高い伸びとなった。また、原油安が落ち着いたことから、エネルギー関連の投資も持ち直していると思われる。ただ、住宅投資は-6.2%と 2 四半期連続で減少した。

③輸出は+10.0%と大幅に伸び、輸入は+2.3%となり、経済成長への外需寄与度はプラス幅を拡大した。

④政府部門は+0.5%とプラス改善、国防関連、非国防関連とも増え、連邦政府が+2.5%、州・地方政府のマイナスを補った。

⑤個人消費支出 (PCE) 物価指数は、前年同期比+1.0%、変動の激しいエネルギー と食品を除いたコア PCE 物価指数は+1.7%となった。

21 : 30

＜ 経済指標の結果 ＞

3Q 米雇用コスト指数 (前期比) 0.6% (予想 0.6%・前回 0.6%)



出所 : Bloomberg

《米雇用コスト指数（前期比）》

9月・6月・3月・15年12月

非軍人労働者

報酬・・・0.6・・・0.6・・・0.6・・・0.5
 賃金・給与・・・0.5・・・0.6・・・0.7・・・0.5
 諸手当・・・0.7・・・0.5・・・0.5・・・0.6

民間部門

報酬・・・0.5・・・0.6・・・0.6・・・0.5
 賃金・給与・・・0.5・・・0.6・・・0.7・・・0.6
 諸手当・・・0.5・・・0.4・・・0.5・・・0.4

政府部門

報酬・・・0.9・・・0.5・・・0.5・・・0.8
 賃金・給与・・・0.7・・・0.4・・・0.4・・・0.5
 諸手当・・・1.2・・・0.6・・・0.6・・・1.2

7-9月期の米雇用コスト指数は、前期比で+0.6%と市場予想と一致した。上昇率は前期から横ばいとなった。前年同月比は+2.3%となり、前期と同じ伸び率。前期比で見ると、所得の柱となる賃金・給与は+0.5%、前年同期比では+2.4%。医療保険などの諸手当は+0.7%、前年同期比では+2.3%となった。民間企業のECIは、前期比+0.5%、前年同期比は+2.3%。政府部門のECIは、前期比+0.9%、前年同期比は+2.6%となった。

23:00

《 経済指標の結果 》

10月ミシガン大学消費者信頼感指数 87.2（予想 88.2・前回 87.9）



出所：Bloomberg

《ミシガン大学消費者信頼感指数》

10月確報・10月速報・9月・8月・7月・・・6月

消費者信頼感・・・87.2・・・87.9・・・91.2・・・89.8・・・90.0・・・93.5
 景気現況指数・・・103.2・・・105.5・・・104.2・・・107.0・・・109.0・・・110.8
 消費者期待指数・・・76.8・・・76.6・・・82.7・・・78.7・・・77.8・・・82.4
 1年インフレ・・・2.4・・・2.4・・・2.4・・・2.5・・・2.7・・・2.6
 5年インフレ・・・2.4・・・2.4・・・2.6・・・2.5・・・2.6・・・2.6

10月の米ミシガン大学消費者信頼感指数の確報値は、市場予想の88.2を下回る87.2となり、10月の速報値から0.7ポイント低下し、昨年9月以来1年1ヵ月ぶりの低水準となった。現状指数は103.2となり、10月速報値から2.3ポイント低下、前月比では1.0ポイント低下し、昨年10月以来1年ぶりの低水準となった。期待指数は76.8と10月速報値から0.2ポイント上昇となり、前月比では5.9ポイント低下し、昨年2014年9月以来の低水準となった。1年後のインフレ期待は2.4ポイントで10月速報値、前月から変わらなかった。

＜海外の話題＞

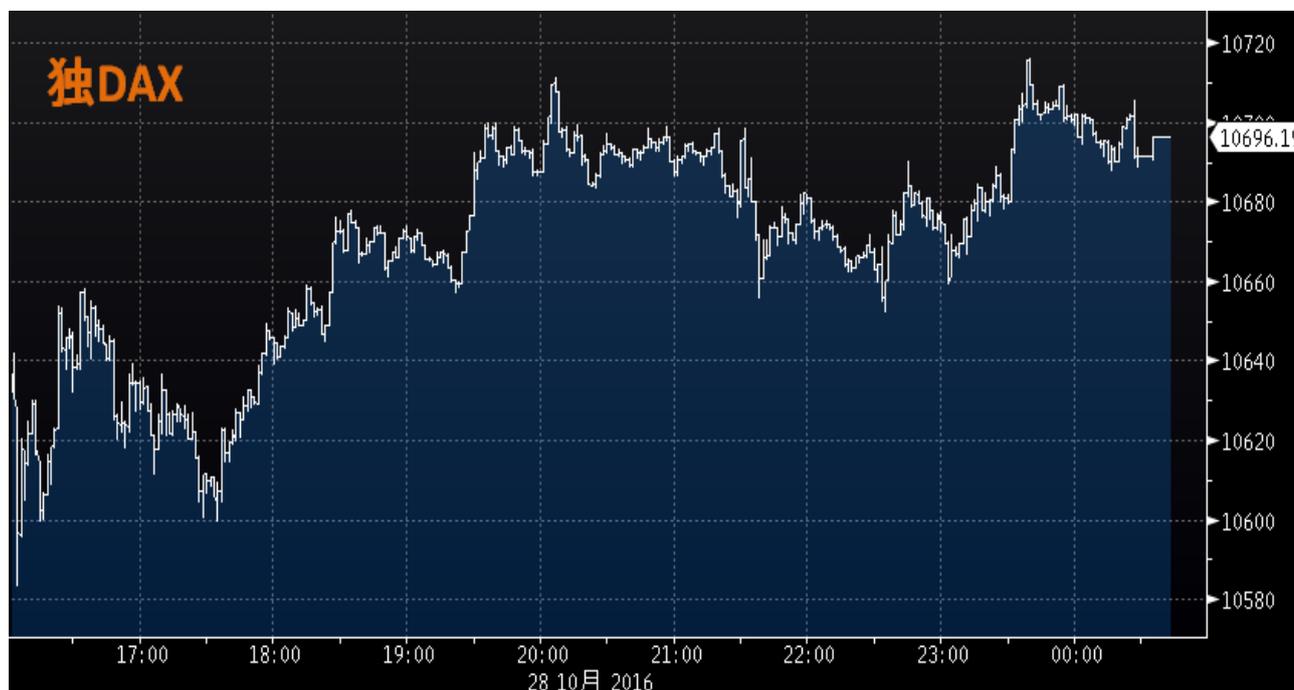
ロシア中銀は、政策金利を10.00%に据え置く一方、来年第1四半期もしくは第2四半期に利下げを行う可能性を示唆した。声明では、金利を年内10.00%に維持する方針を示した上で「今後数ヵ月内に金利決定を下す際、インフレリスクおよび経済動向や基本シナリオに沿ったインフレ率との兼ね合いを精査する」と述べた。中銀は今年2回利下げを実施している。次回の政策決定会合は12月16日で、ナビウリナ中銀総裁が会見を行う。

＜欧州のポイント＞

- ①スペイン統計局が発表した第3四半期のGDP速報値は、前期比+0.7%となり、市場予想と一致した。伸び率は第2四半期の0.8%からは若干鈍化した。スペインでは労働市場が回復、観光業も好調で消費支出が押し上げられており、10ヵ月に及んだ政局混乱の影響はほとんど出ていない。GDPは前年同期比では+3.2%となり、予想を上回った。ただ、第2四半期の+3.4%からは減速した。
- ②サバン・フランス経済・財務相は、第3四半期GDP伸び率が予想を下回ったことで、今年通年の伸び率目標の1.5%はより達成困難となったが、2017年の目標である1.5%を達成できるとの見通しに疑問はないと述べた。フランス国立統計経済研究所が発表した第3四半期のGDP速報値は、前期比+0.2%となり、伸びは市場予想を下回った。消費支出が伸びなかったことが要因となった。

＜欧州株式市場＞

欧州株式市場は、まちまちの結果となった。OPECの9月下旬に合意した減産の実施に向けた協議の行方や、欧州債券市場の動きをにらみながら、神経質な取引が続いた。独DAX指数は小幅安、英FT100指数、仏CAC40指数は小幅高となった。



出所：Bloomberg

2:20

米FBIがクリントン氏の電子メール問題の捜査を再開との報道

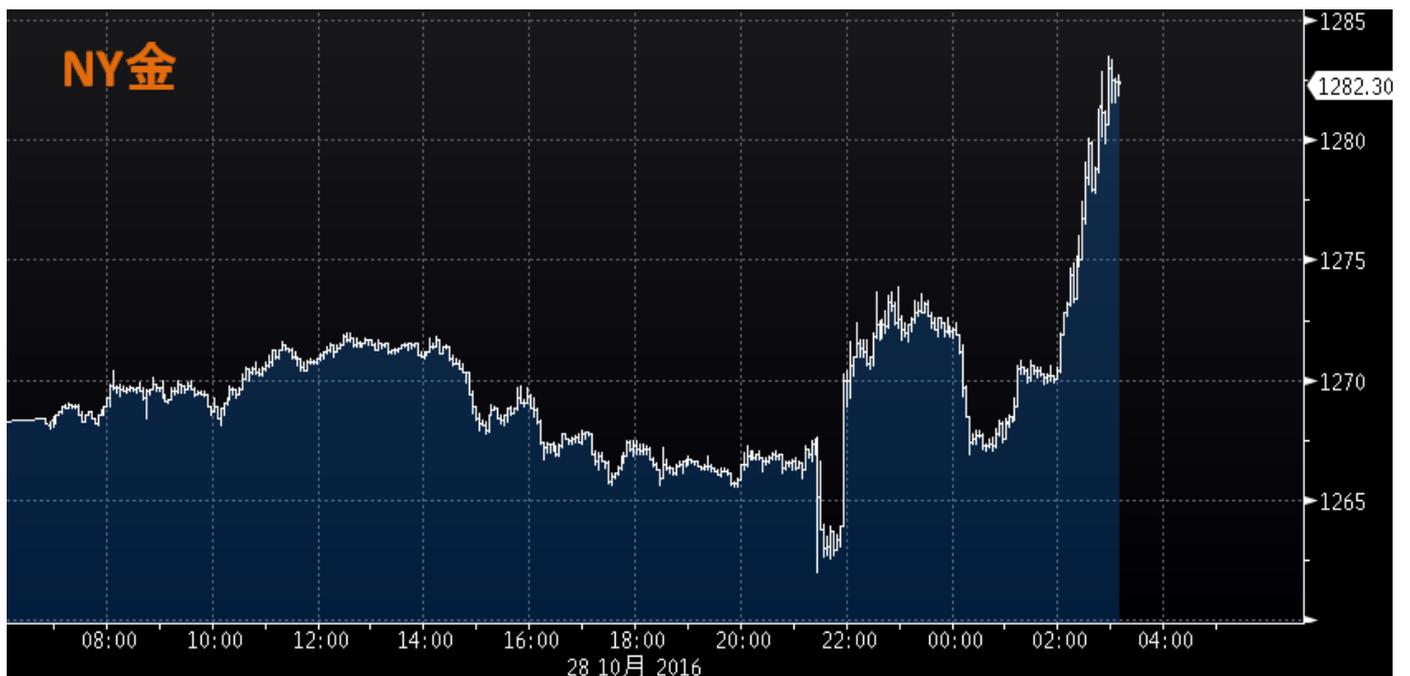


出所: Net Dania

◀ NY 金市場 ▶

NY 金は、中心限月が前日比 7.30 ドル高の 1 オンス=1276.80 ドルで取引を終了した。

NY 金は、米大統領選の民主党候補クリントン氏のメールを問題で、FBI が調査を再開する方針を示したとの報道を受けて、大統領選の結果にも影響を及ぼすとの警戒感から、比較的安価な資産とされる金を買う動きが優勢となった。

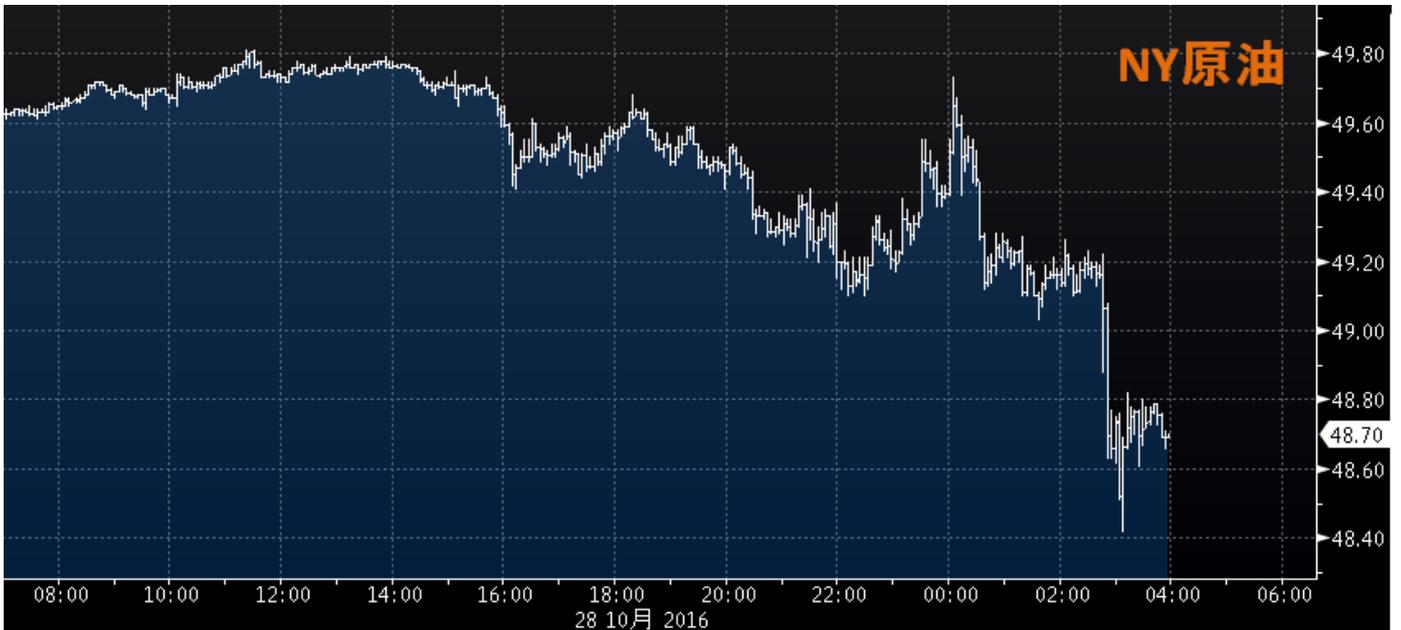


出所: Bloomberg

◀ NY 原油市場 ▶

NY 原油は、中心限月が前日比 1.02 ドル安の 1 バレル=48.70 ドルで取引を終了した。

NY 原油は、OPEC が減産の実行に向けて始めた協議が難航しているとの見方が広がり、売りが優勢となった。また、米石油サービス大手が発表した米国内の石油掘削装置の稼働数が約 4 ヶ月ぶりに減少に転じたものの、反応は限定的となった。



出所：Bloomberg

◀ 米株式市場 ▶

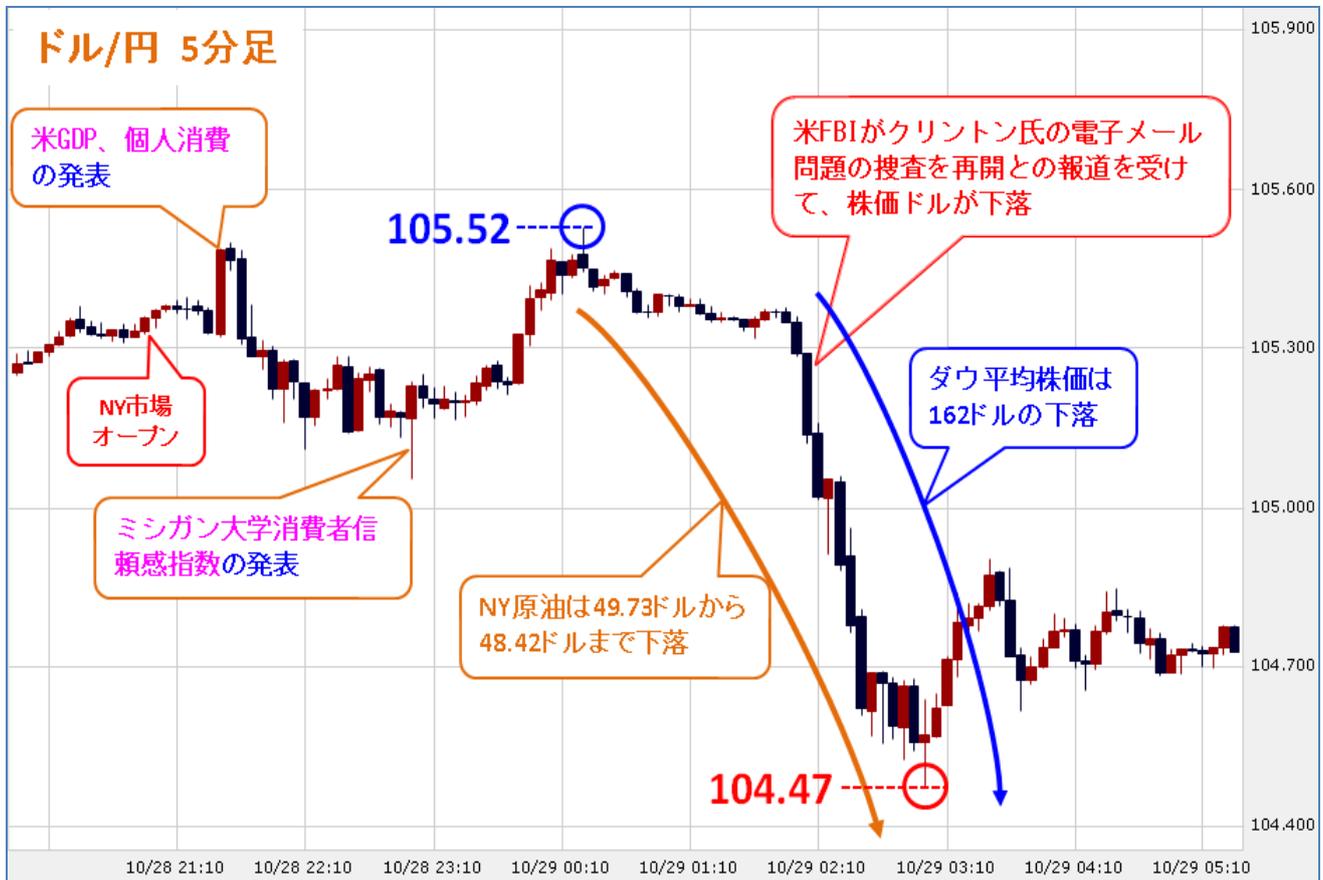
米株式市場は、7-9 月期の米 GDP の伸び率が市場予想を上回ったことを好感し、買いが先行した。ただ、その後に発表された 10 月の米消費者関連の指標が低調となったことから、上値の重い動きとなり、もみ合いの展開が続いた。そして、米 FBI がクリントン氏の電子メール問題の捜査を再開との報道を受けて、主要株価は軒並み下落する動きとなった。



出所：Bloomberg

◀外国為替市場▶

外国為替市場は、米 GDP が予想を上回る結果となったことを受けて、ドルは堅調な動きとなり、クロス円も堅調な動きとなった。ただ、個人消費の伸びが低下したことや、消費者関連の指標が悪化したことから、上値の重い動きとなった。その後、米 FBI がクリントン氏の電子メール問題の捜査を再開との報道を受けて、リスク回避の動きが強まり、ドル円・クロス円は下落する動きとなった。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様自身でお願いします。